

ワイヤーウェーブライト・大波（壁・平葺き工法）に関する法的根拠について

1. はじめに

ワイヤーウェーブライト・大波は、網入型板硝子をモールド成形して製作されたガラスになります。法的な取り扱いは、開口部かつ非耐力壁になります。建物壁面が延焼線内に該当する場合は、防火設備としての性能が必要になります。

2. 防火設備に関する適用法律条文

平成12年建設省告示第1360号「防火設備の構造方法を定める件」第1項二のニに相当致します。

※第1360号 第1項 二のニ 抜粋

「建築基準法施工令第百九条の二に定める技術的基準に適合する防火設備の構造方法は、次に定めるものとする事。（ロ、ハ、ホは省略）

（イ）鉄製で鉄板の厚さが0.8mm以上1.5mm未満のもの。

（ニ）鉄及び網入ガラスで造られたもの

※建築基準法施行令第百九条の二「遮炎性能に関する技術的基準」抜粋

「法第二条九号の二ロの政令で定める技術的基準は、防火設備に通常の火災による火熱が加えられた場合に、加熱開始後20分間当該加熱面以外の面に火炎を出さないものであることとする。」

2・ワイヤーウェーブライト・大波（壁・平葺き工法）製品構成

当社『ワイヤーウェーブライト』は採光材として網入ガラス（型板）を波形状にモールド成形したガラスを使用し、ガラス長辺側目地は耐火性が高いステンレス製のカバーキャップ内に採光材長辺部を差込み、止水する構成となっております。カバーキャップは、SUS製フックボルトで各胴縁に固定されています。ガラス上下は、150mmの重ね工法となります。各ガラスは、胴縁に固定されたステンレス製下見金具（ガラス自重を受け胴縁に伝達・ガラス1枚につき2か所設置）にて、胴縁に固定されています。ガラス開口部外周は、鋼板製水切りと取り合います。風圧荷重（負圧）は、標準施工は長辺側カバーキャップが負担し、フックボルトを介して各胴縁に伝達します。負圧荷重が大きい場合、オプションの負圧対策アングル（SUS L-40×40×3）を併用（2点・3点）します。風圧荷重（正圧）は、各胴縁が直接負担します。

○ワイヤーウェーブライト（壁・平葺き工法）の部材名称と材質

No	部材名称	材質	機能
1	ガラス	網入ガラス（型板） ※波形状 ※大波	採光材 耐火材
2	カバーキャップ（縦目地）	ステンレス 1.0mm	ガラス押え・止水材・耐火材
3	下見金具	ステンレス鋼板 2.0mm 幅20mm	ガラス押自重受け ガラス支持材
4	フックボルト	ステンレス 6Φ	ガラス支持材 風圧荷重胴縁伝達材
5	外周水切り	鋼板0.8mm ※建築工事	止水材 耐火材
6	胴縁	鉄製（建築工事） 軽量型鋼・角パイプ等	ガラス支持材 耐火材

※材質的には全て不燃材（平成12年建設省告示第1400号）該当品

3. まとめ

ワイヤーウェーブライト・大波（壁・平葺き工法）は、平成12年建設省告示第1360号第1項イ、ニに相当しており、20分の遮炎性能のある防火設備に相当するものと考えております。

2020年12月1日
日昌グラス株式会社
開発営業部